

ナショナルバイオリソースプロジェクト「カタユウレイボヤ等リソース拠点形成」

第1回運営委員会議事録 2007年9月27日（木）

1. 日時 2007年9月27日（木） 16:00～17:30
2. 場所 御茶ノ水ビジネスセンター カンファレンス8
3. 出席者 竹内佑介（文部科学省）、吉原 剛（NBRP事務局長）、山崎由紀子（NBRP・遺伝研）
星 元紀（運営委員：放送大）、野中 勝（運営委員：東大）、西駕秀俊（運営委員：首都大）
佐藤矩行・濱田麻友子・平山和子（京大）、稲葉一男・笹倉靖徳・堀江健生（下田）、
赤坂甲治・吉田 学・黒川大輔（三崎）

4. 報告および議事

- 1) 竹内：ナショナルバイオリソースプロジェクト全体の説明。
特に、第一期の反省を踏まえた第二期の注意点など。
- 2) 運営委員長を野中先生に依頼し了承を得る。
- 3) 吉原：12月の分子生物学会におけるNBRPブースへの展示依頼
- 4) 山崎：NBRPのホームページにホヤを載せる。

データベースの支援などもするのでなるべく早くに情報公開を。

5) 各機関の説明

京都大学

野生型飼育と提供の概要、提供先の実績

純系の確立：現在F₃飼育中

飼育中の突然変異体

筑波大学（下田）

達成目標

19年度業務内容：リソース整備の拡充、保存設備の充実、収集・保存・提供体制の充実

現在の状況

東京大学（三崎）

成果の目標と業務の方法

6) 質疑応答他

Q: 「有用な系統を収集」してリソースを充実させるためという意味での系統の開発はプロジェクトの目的にかなうか。

A: (竹内) 「保存・提供」が目的なので、改良等リソースの質を上げるのはよいが、第二期の趣旨として新たな開発はニーズがあったとしても認めない。既にあるものを収集すべき。保存法の改良は基盤技術整備プログラムの範囲ではあるが、それが収集・保存・提供により密接に関係し、効果が必ず出るものであればプロジェクトの趣旨からは逸脱していない。リソースの質を高めることは歓迎。

(西駕) ユーザーの立場から、安定供給と安定したクォリティを要望。

(星) NBRPは「サービス」である。このプロジェクトは非常に期待されているので、各機関の努力を望む。